

平成 24 年度事業報告

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業（公益目的事業 1）

- 1 棋戦事業
- 2 専門棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 囲碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
 - 6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 八重洲囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業 2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業 3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス（内部統制）

概 況

日本棋院は、我が国の伝統文化である棋道の継承発展及び普及振興を図るため、棋戦の開催、棋士の育成、囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供等を積極的に推進しました。

また、東日本大震災で被災された方々の支援活動も継続して実施しました。

I 囲碁普及事業(公益目的事業1)

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子はテレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。また、地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

なお、井山裕太棋士が棋聖戦を制し、史上初の6冠(棋聖、本因坊、天元、王座、碁聖、十段)を達成しました。

平成24年度に行われた棋戦の結果は以下の通り。

- (1) 棋聖戦 (第37期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社)
張 栩棋聖 — 井山 裕太本因坊
(井山 裕太本因坊が4勝2敗で棋聖位を奪取)
- (2) 名人戦 (第37期 名人決定七番勝負 朝日新聞社)
山下 敬吾名人 — 羽根 直樹九段
(山下 敬吾名人が4勝3敗で名人位を防衛)
- (3) 本因坊戦 (第67期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社)
山下 道吾本因坊 — 井山 裕太天元
(井山 裕太天元が4勝3敗で本因坊位を奪取)
- (4) 天元戦 (第38期 天元決定五番勝負 新聞三社連合)
井山 裕太天元 — 河野 臨九段
(井山 裕太天元が3勝0敗で天元位を防衛)
- (5) 王座戦 (第60期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社)
張 栩王座 — 井山 裕太本因坊
(井山 裕太本因坊が3勝0敗で王座位を奪取)
- (6) 碁聖戦 (第37期 碁聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟)
羽根 直樹碁聖 — 井山 裕太本因坊
(井山 裕太本因坊が3勝0敗で碁聖位を奪取)
- (7) 十段戦 (第50期 産経新聞社)
井山 裕太十段 — 張 栩棋聖
(井山 裕太十段が3勝1敗で十段位を防衛)

- (8) 竜星戦 (第 21 期 囲碁将棋チャンネル)
井山 裕太竜星 — 林 漢傑七段
(井山 裕太竜星が勝ち優勝)
- (9) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 60 回 NHK)
井山 裕太本因坊 — 結城 聡 NHK 杯者
(結城 聡 NHK 杯者が勝ち優勝)
- (10) テレビ囲碁アジア選手権 (第 24 回 NHK・KBS・CCTV)
(白洪淙九段 (韓国) が優勝)
- (11) 新人王戦 (第 37 期 しんぶん赤旗)
富士田明彦三段 — 金沢 真三段
(金沢 真三段が 2 勝 1 敗で新人王を獲得)
- (12) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 19 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
張 栩棋聖 — 林 子淵七段
(張栩棋聖が 4 期ぶり 4 回目の優勝)
- (13) 阿含桐山杯日中決戦 (第 14 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
張 栩 九段 — 古 力九段
(古 力九段が勝ち優勝)
- (14) 女流本因坊戦 (第 31 期 共同通信社)
謝 依旻女流本因坊 — 奥田 あや三段
(謝 依旻女流本因坊が 3 勝 0 敗で女流本因坊位を防衛)
- (15) 女流名人戦 (第 25 期 産経新聞社)
謝 依旻女流名人 — 奥田 あや三段
(謝 依旻女流名人が 2 勝 0 敗で女流名人位を防衛)
- (16) 女流棋聖戦 (第 16 期 NTT ドコモ)
青木喜久代女流棋聖 — 謝 依旻女流本因坊
(謝 依旻女流本因坊が 2 勝 0 敗で女流棋聖位を奪取)
- (17) 広島アルミ若鯉戦 (第 7 回 広島アルミニウム)
鈴木 伸二三段 — 一力 遼二段
(鈴木 伸二三段が勝ち優勝)
- (18) 王冠戦 (第 53 期 中日新聞社)
羽根 直樹王冠 — 中野 寛也九段
(羽根 直樹王冠が勝ち王冠位を防衛)
- (19) マスターズカップ (第 2 回 エステー・フマキラー)
王 銘エン九段 — 二十五世本因坊治勲
(王 銘エン九段が勝ち優勝)
- (20) おかげ杯 (第 3 回 濱田総業)
安斎 伸彰六段 — 瀬戸 大樹七段
(安斎 伸彰六段が勝ち優勝)

(21) ネット囲碁オープン（第8回 大和証券グループ）

高尾 紳路九段 — 結城 聡九段
（結城 聡九段が勝ち優勝）

(22) 海外棋戦

L G杯・三星火災杯・B Cカード杯・農心杯（韓国）、春蘭杯・黄竜士双登杯・中国囲碁リーグ戦（中国）、等の海外棋戦に参戦しました。

そのなかで、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチームを平成25年度より編成することを決定しました。

また、合わせて、チーム名の公募と応援募金の募集についても、平成25年度よりスタートすることも決定しました。

2 専門棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

棋士を目指す約100人の院生をA～Eクラスに分け毎週土・日曜日（8回/月）に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範を置き礼儀作法から指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の4月～6月期研修総合成績1位の者1名、本院・中部・関西の院生研修上位者39名と外来受験者31名が参加し8月～11月に棋士採用試験を各本部で実施し計4名、また、12月～2月に女流特別採用を実施し1名、合計6名の棋士採用を実施しました。

- ・本院夏季採用(1名) 姚 智騰
- ・本院冬季採用(2名) 許 家元・藤村 洋輔
- ・中部本戦採用(1名) 卞 聞愷
- ・関西本戦採用(1名) 田中 伸幸
- ・女流特別採用(1名) 星合 志保

② 院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を144回実施しました。

③ 院生ネット指導

毎週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を298局実施しました。棋譜については一般公開しました。

(2) 若手棋士育成

① 若手棋士強化合宿（於：中国） 1回実施

若手棋士の棋力強化を目的に、中国棋院の協力を得て、強化合宿を実施しました。9月3日～7日までの日程で、一力 遼三段・藤沢里菜初段含む棋士9名が参加し、棋道

研鑽に努めました。

② 若手棋士育成棋戦「中野杯」の実施（週刊碁主催）

20歳以下の若手棋士及び院生による棋戦。第9回となる本年度は金沢真三段・稲葉貴宇二段・呉柏毅院生・星合真吾院生ら64名が出場。（院生は過去最多の30名が参加。）8月20日に予選を行い本戦から決勝戦は9月24、25日に実施した。

③ 中国遠征（中野杯上位者を派遣）

例年中野杯のベスト8と推薦者2名が11月に中国の若手棋士らと対局、研鑽しているが、本年は訪問国の諸事情を考慮して延期となりました。

④ 海外棋戦への挑戦（BCカード杯、LG杯、三星火災杯）

海外棋戦は予選からオープン戦となり、誰でも、参加できるようになったことから、若手棋士に挑戦を促し、韓国、中国の棋士との対局を通じて国際対局を身につける経験を積ませました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、浸透に努める等、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により147会場に棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、今年度も新規に東京都中央区、墨田区、神奈川県横浜市、埼玉県熊谷市で学校囲碁普及を実施しました。

現在、行政囲碁事業を行っている自治体は以下のとおり。

秋田県：大仙市、秋田市、能代市、大館市、横手市、東成瀬村、湯沢市

東京都：墨田区、文京区、渋谷区、千代田区、中央区、品川区、江東区、江戸川区、

目黒区、世田谷区、大田区、杉並区、足立区、多摩市、三鷹市、東久留米市

埼玉県：熊谷市、北本市、幸手市、朝霞市、春日部市、川口市、上尾市、行田市、

さいたま市

神奈川県：横浜市、平塚市、横須賀市、川崎市

沖縄県：那覇市、浦添市、沖縄市、名護市、糸満市

福岡県：福岡市、久留米市、柳川市

島根県：出雲市、益田市、太田市

茨城県：取手市、つくば市

千葉県：船橋市、習志野市

新潟県：長岡市、聖籠町、新潟市

群馬県：太田市、伊勢崎市

そのほか：山梨県・北杜市、長野県・大田市、静岡県・静岡市、青森県・青森市、
岩手県・奥州市、山形県・山形市、栃木県・足利市、三重県・四日市市、
三重県・志摩市、広島県・尾道市、鹿児島県・奄美市で行っている。

＜主な行政囲碁事業の取組み＞

【秋田県大仙市】（行政囲碁事業モデル地区）

平成 18 年から日本棋院と事業協定を結び、市内小学校 7 校からスタート。本年度は 16 校が囲碁を採用し、放課後やクラブ活動の時間に囲碁教室を開催しました。囲碁を学ぶ 179 人の小学生を指導するのは地域のボランティア 49 人で、市教育委員会の推薦を得て、日本棋院が認定する学校指導員の資格を得ています。

現在、大仙市における囲碁事業は、学校囲碁教室、月末土日の「大仙囲碁道場」、毎週金曜日の「学びい囲碁サロン」を 3 本柱とし、市内の子供が交流できる機会を設けています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 38 校のうち、30 校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。また、6 月には、「品川区ジュニア囲碁フェスタ 2012」を開催し、約 500 人が参加しました。

【埼玉県北本市】

北本ジュニア囲碁まつりを開催。地域の団体グループや日本棋院等が協力し、囲碁まつり実行委員会を発足。市内の小中学校では囲碁体験教室、総合学習時間などで囲碁を採り入れ、指導者講習では独自のマイスター研修を行いました。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、財団法人 JKA の青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 17 箇所で開催し、延べ 525 人が参加しました。

(4) 囲碁少年少女育英資金活用による事業

学校教育への囲碁導入に際して、棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を実施しました。

① 小学校 46 校 延べ 1,050 人、保育園 2 件延べ 44 人、中学校 1 校延べ 20 人、合計 1,114 人の指導員を派遣しました。

② 小学校 18 件、中学校 1 件、教育委員会 1 件 計 20 件の用具支援及び大会トロフィー寄贈 2 件を実施しました。

(5) 囲碁と脳に関する研究と大学での囲碁授業の導入拡大

① 東北大学加齢医学研究所（川島隆太教授）と「囲碁と脳に関する研究」を継続

東北大学と日本棋院は平成 17 年度より「囲碁と脳に関する研究」を行っており、平成

23 年度に実施した囲碁入門講座参加者の検証結果から、囲碁は児童の認知発達に良い影響があるとの解析結果を得ました。平成 24 年度は、この研究結果を青少年への囲碁普及活動に活用し、小学校や大学囲碁授業の拡大を図りました。

② 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年 10 月より、東京大学教養学部と連携して 1～2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設しました。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることが目的で、平成 24 年度も日本棋院は講師として棋士を派遣するなど、全面的に協力しました。

③ 新たに 3 大学において囲碁授業を開始

平成 23 年度に囲碁授業を実施した東京大学、早稲田大学、慶應大学、東邦大学 皇学館大学に加えて、平成 24 年度は、埼玉大学、琉球大学、青山学院大学において、囲碁授業を開講し、合計 8 校となった。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。また、囲碁授業の開設に向けて働きかけを行い、平成 25 年度より、5 大学で囲碁授業の開始が新たに開始される予定であります。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。

平成 24 年度も、引き続き 44 社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を活かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施し、実施局数は延べ 2,346 局にのぼりました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で 420 件実施し、延べ 1,020 人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援しました。全国 126 箇所で開催しました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、昨年度新設したサポート会員を増やすなど、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国 8 箇所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

第 33 回普及功労賞 大室 正 (福島県支部連合会 会長)
竹之内 正子 (奈良県支部連合会 会長)

第 31 回普及活動賞 全国で 54 名を表彰

平成 24 年度優秀支部表彰 会員数十傑 一位 三重支部 (三重県) 337 名
会員増十傑 一位 南支部 (北海道) 33 名

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟 (IGF) との連携

日本棋院は、2012 年国際囲碁連盟 (IGF) の会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努めました。

① 三谷哲也七段、熊ホウ六段を 7 月 20 日から 7 月 30 日までドイツで開催された第 56 回ヨーロッパ碁コンgresに派遣し、普及指導及び交流を図りました。

② 円田秀樹九段を 9 月 28 日から 10 月 2 日までオランダに派遣し、オランダの欧州囲碁文化会館 20 周年記念式典行事に出席し、地元関係者との交流及び普及指導を行いました。

③ 国際交流基金の助成を受けて、村上晶英二段を 11 月 8 日から 11 月 18 日までブラジルに派遣し、地元愛棋家との交流及び技術指導を行いました。

(3) 文化交流使の活動を支援

大澤奈留美四段が文化交流使として活動。3 月 14 日から 5 月 14 日まで米国、ブラジルにおいて活動した文化交流事業を支援しました。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供し、延べ17,376名が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供しました。指導碁解説付加などの機能改善による囲碁ファンの棋力向上、また、平成24年度はiOS向けのアプリも提供し、プラットフォームの拡大を図りました。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁はハンディキャップが付与され、棋力の差がある者同士の対局でも勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、3,141人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、665支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした3つの全国大会及び地区大会が例年に近い規模で開催されたほか、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第33回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を7月31日・8月1日の日程で、東京の日本棋院で開催しました。地方大会では複数会場での開催を呼びかけ、4,537人が参加（小学生：3,307人・中学生1,230人）し、入門者・初級者大会も実施しました。全国大会は、小学生101人、中学生102人が参加し、大会の様子はNHK Eテレで放送されました。小学生の部は林隆羽くん（埼玉・さいたま市立谷田小学校6年）、中学生の部は中島光貴くん（埼玉・川口市立西中学校1年）が優勝しました。

(2) 第9回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学校での部活動や正課授業の取り組みの一助となるよう大会の充実を図りました。地方大会は小学校 225 校、1,020 人、中学校 167 校、797 人が参加。全国大会は7月29日・30日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ64校、192名が参加。小学校の部は千代田区立九段小学校（東京）が、中学校の部は広島学院中学校（広島）が優勝した。本大会は財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第36回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

地方予選では1,291校、4,238人(男子:3,312人・女子926人)が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は7月23日から25日までの3日間で、団体戦・個人戦を行い、男子団体(代表50校)は、東京・開成高校、女子団体(代表46校)は、千葉・渋谷教育学園幕張高校が優勝。男子個人(代表98名)は、大表拓都君（富山・富山南高等学校1年）、女子個人(代表48名)は、榛沢彩香さん（千葉・渋谷教育学園幕張高等学校2年）が優勝した。地方大会においては複数会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数の増加を目指しました。財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4) くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成23年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした大会である。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部44名、小学生高学年の部46名の計90名がこども棋聖の称号をかけて競いました。高学年の部は川口飛翔君（埼玉・川口市立本町小4年）、低学年の部は犬丸翔太君（神奈川・横浜市立あざみ野第二小学校3年）が優勝しました。

(5) 第1回ロッテこども大会

中学生以下の入門から級位者を対象に、5月4日東京の日本棋院で開催しました。コアラのマーチのキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、965人が参加しました。

(6) その他の大会

- ・ジュニア囲碁大会
- ・ジュニア囲碁パーク

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなります。

(1) 宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会である。全国7ブロック、8会場で9の地方大会を延べ11日間開催し、5,368人が参加。11月24日に東京の日本棋院において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2) 第55回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手126名により、3月16日・17日の日程で全国大会(会場：日本棋院会館)を開催しました。大沢摩耶さん（シード）が優勝しました。

(3) 第50回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦であり、1チーム5名の団体戦である。10月17日・18日の2日間、山口県下関市で開催しました。全国から630人の選手が参加し、6クラス中最上位のAクラス紅組は、神奈川の「白ゆり会」が優勝しました。

(4) 第12回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成の団体戦であり、東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームによる決勝戦を11月25日に東京日本棋院会館で開催しました。優勝の「初台囲碁クラブ」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(5) 第6回大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権

インターネット上で、15クラスに分かれてクラス別トーナメントを開催し、1,965人が参加しました。

(6) 都道府県民まつりの開催

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、2,013人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,806人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」の囲碁交流大会は、10月14日・15日に宮城県白石市で開催され、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣しました。

(8) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」とし、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しました。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするように、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3 国際囲碁選手権の開催協力及び海外囲碁大会等への協力

(1) 第33回世界アマチュア囲碁選手権戦 広州大会への選手派遣

2010年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、日本・中国・韓国で2年ごとに開催国が交代する輪番制となった。

中国広州で開催の第33回大会(55カ国・地域55名参加)に代表選手を派遣しました。大会順位は8位でした。

(2) 韓国首相杯国際アマチュア選手権戦、ワールドユース選手権戦、大韓生命杯少年少女選手権戦に選手を派遣しました。

6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催を目的として平成23年に創設したタケフ基

金を活用し、本年度も、東北4県で「こころの碁」イベントを開催しました。

(1) 岩手県：「東日本復興祈念囲碁イベント こころの碁・もりおかday」

2012年8月25日（土）

後援：岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、岩手日報社、IBC 岩手放送

協力：日本棋院盛岡支部、不来方会、(社) 岩手囲碁センター、ホテル紫苑

盛岡市「ホテル紫苑」で被災地7支部（久慈・宮古・陸中山田・大槌・釜石・大船渡・陸前高田）と遠野支部の会員への指導碁会実施

参加費：無料

参加者：100人

(2) 宮城県：「東日本復興祈念！こころの碁・がんばろうみやぎ」

2012年9月23日（日）

後援：仙台市、(株)河北新報社

協力：宮城県囲碁連盟、日本棋院宮城県支部連合会、

「今、子供たちと碁を！宮城の会」

仙台市「ハーネル仙台」で公開対局、指導碁等実施

参加費：無料

参加者：160人

(3) 福島県：「東日本復興囲碁イベント こころの碁・絆・がんばろうふくしま」

2012年9月29日（土）

後援：福島県、福島市、福島民報社、福島民友新聞社、

福島テレビ株式会社

協力：日本棋院福島県支部連合会

「パルセいいざか（福島市飯坂温泉観光会館）」で入門初心者教室、

公開激励対局及び指導碁会実施

参加費：無料

参加者：190人

(4) 青森県：「東日本復興囲碁イベント 青森こころの碁・ケッパルべえ八戸」

2012年11月17日（土）

後援：青森県、八戸市、デーリー東北新聞社、八戸テレビ放送

協力：日本棋院青森県本部、日本棋院八戸支部

八戸市「八戸プラザホテル」で公開対局 及び100面打ち指導碁

参加費：無料

参加者：80人

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2013年3月26日に合同表彰式を実施しました。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第42回大倉喜七郎賞 / 鮎沢 まこと (漫画家)
渡辺 良作 (山口県支部連合会会長)
戸塚 和夫 (日本棋院栃木県本部長)
堀 英治 (福井県囲碁連盟相談役)
林 海峯 (日本棋院棋士名誉天元)
大竹 英雄 (日本棋院棋士名誉碁聖)

(2) 秀哉賞

21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第50回秀哉賞 / 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元・王座・碁聖・十段・竜星

(3) 棋道賞

第46回棋道賞／最優秀棋士賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元・王座・碁聖・十段・竜星
優秀棋士賞 山下 敬吾名人
張 栩阿含桐山杯者
新人賞 伊田 篤史四段
女流賞 謝 依旻女流本因坊・女流名人・女流棋聖
最多勝利賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元・王座・碁聖・十段・竜星
勝率第一位賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元・王座・碁聖・十段・竜星
連勝賞 張 豊猷八段
最多対局賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元・王座・碁聖・十段・竜星

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

平成24年度／安井算哲（渋川春海）、陳 毅 両氏

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

① 月刊「碁ワールド」定価860円 毎月20日発売 B5判 152頁組建

中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ内容を掲載しました。

② 月刊「囲碁未来」定価620円 毎月5日発売 B5判 100頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座等、囲碁情報を掲載しました。また囲碁未来教室のテキストとしても活用しました。

③ 「週刊碁」定価270円 毎週月曜日発行 タブロイド判 20頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対

象とする多彩な構成であり、囲碁愛好者に情報を発信しました。

④ 囲碁年鑑」定価 3,360 円 年 1 回発行 B5 判 396 頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成 23 年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、年間 700 以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新しました。棋士プロフィールなどの囲碁情報や入門ページ、英文ページなどを含め、全世界から年間 4,300 万アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に様々な機能を展開し、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、iPhone、iPad 向けのアプリケーションをリリースし、プラットフォームの拡大に努めました。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・棋士とのふれあいイベント
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40 年以上に亘る、約 4 万局の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④ 碁バイルセンター

碁バイルセンターでは、携帯電話で手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを提供しました。

⑤ 情報端末向けサービス

携帯電話（ドコモ、au、ソフトバンク）向けにタイトル戦の生中継サービスを実施している。平成 24 年度は、棋聖戦、碁聖戦、十段戦の 3 棋戦でタイトル戦中継を実施しました。

⑥ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来・単行本を電子書籍アプリ「i 碁 BOOKS」で配信している。

4 月 i 碁BOOKS コンテンツ『e ムック』配信開始

iPhone&iPad アプリ「張栩の黒猫のヨンロ」を配信

4・5 月 電子版新聞・雑誌キャンペーン実施

10 月 「張栩の黒猫のヨンロ」英語・中国語対応・キャンペーン実施

11 月 「張栩の黒猫のヨンロ」韓国語対応

12 月 i OS アプリ年末年始キャンペーン実施

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示している。平成24年度入館者数は5,937人、特別対局室見学者は436人。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへの総合的なサービスセンターとして、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品・書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校など、ファンサービスに心掛けました。

八重洲囲碁センターは、多くの囲碁ファンにご利用頂きましたが、賃料等管理費負担が過重であり、赤字決算が続く棋院の収支にも悪影響を及ぼしていることから、スペースの最適な活用が可能である「東京交通会館」（有楽町）への移転を決定しました。八重洲囲碁センターは平成25年5月末をもって閉鎖し、6月より新会館における事業を再開の予定となっております。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

・お楽しみ囲碁大会	367人
・段位認定大会	741人
・松竹梅囲碁大会	231人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は60,774人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2 関西総本部

大阪市に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統轄し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の開催及び後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル（延べ700人が参加）
- ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり（145人が参加）
- ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり（2日間で延べ1,500人が参加）

(2) 会館事業の充実

ホールでは、一般対局のほか棋士による指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催した。新企画として毎週火曜日に「囲碁プラザ」を開催し好評を得ました。貸室では、法人各種団体の利用を促し、より快適に利用頂けるよう努めました。

(3) 青少年への囲碁普及の充実

関西財界の応援を頂き「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室）」を4月より関西棋院と共催で開催。地元の囲碁協会と協力し、市の行政や教育委員会の理解のもと、

関西地区の公立小学校へ総合学習の時間やクラブ活動の時間を利用した「囲碁体験入門教室」を25校 約2,900人に行いました。

今後も既存の小中学校の囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、及び子供大会を中心とした普及を一層拡大させるよう努めます。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催及び後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・ 囲碁ゼミナール（106人）
- ・ 東海地区朝日アマ団体十傑戦（81人）
- ・ ジャンボ団体戦（231人）
- ・ 中部こども級位者大会（177人）
- ・ 会員と棋士囲碁のつどい（198人）
- ・ 愛知県・江蘇省青少年囲碁交流（101人）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・ 中日新聞社主催「第53期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）
- ・ 中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

① 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実に努めました。

② 院内イベントの充実を図った。

- ・ 「10 アンダーの日」
- ・ 「級位者の日」、「有段者の日」
- ・ 「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」

③ 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会を全13講座に増設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。

10-4 海外囲碁センター

(1) シアトル碁センターについては、平成23年度に売却を決定しましたが、現地より反対が表明され、米国連邦裁判所に提訴が行われました。これを受け、日本棋院は和解に向け協議・確認すべき事項を検討し交渉を続けた結果、日本棋院は「シアトル碁センターの売却」を撤回、一方、現地は提訴を撤回したことから、シアトル碁センターのこれからの運営に係る新たな契約を締結し、センター運営を継続することとしました。

(2) ニューヨーク碁センターについては、シアトル碁センターを売却して再建する方針であったが、この売却が撤回されたことから、「ニューヨーク碁センター検討委員会」を設置し、検討中であります。

(3) サンパウロ並びにアムステルダム碁センターについては、同センターを現地普及団体に貸与し、現地における囲碁普及活動を支援しました。

Ⅱ収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、3級から八段までの1,842通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされます。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与している。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する単行本を発行。150点の書籍を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売しました。

以下5点の新刊を発刊した。

美の有段詰碁 100（上）	2012年10月20日発売	定価1,260円	B6判	224頁建
美の有段詰碁 100（下）	2012年10月20日発売	定価1,260円	B6判	224頁建
日々碁席	2013年2月10日発売	定価740円	A5判	200頁建
はじめての詰碁	2013年2月10日発売	定価1,050円	B6判	224頁建
やさしい詰碁	2013年2月21日発売	定価1,050円	B6判	224頁建

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、寄付金等取扱規程を制定し、寄付金の取扱い、手続きや寄付者への公益法人による税制上の優遇制度の理解促進に努めました。

2 コンプライアンス

公益法人として、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制制度整備委員会を開催しました。

コンプライアンス行動規範の徹底を行うとともに、規程類・マニュアル類等の適正な見直しを図りました。

役員等に関する事項

平成 25 年 3 月 31 日現在

役 名	氏 名	就任年月日	担任職務	備 考
総 裁	今井 敬	H16. 7. 13	総 裁	(社)日本経済団体連合会名誉会長 新日鐵住金株式会社名誉会長
顧 問	大竹 英雄	H24. 6. 26	顧 問	日本棋院棋士 九段
理 事 長	和田 紀夫	H24. 6. 26	理 事 長	日本電信電話株式会社 相談役
副理事長	蛇川 忠暉	H19. 4. 1	副 理 事 長	日野自動車(株) 特別顧問
副理事長	山城 宏	H24. 6. 26	副 理 事 長	日本棋院棋士 九段
常務理事	後藤 俊午	H18. 7. 30	関西総本部	〃 九段
〃	山田 至宝	H24. 6. 26	出版部/海外室	〃 七段
〃	宮川 史彦	H18. 7. 30	中部総本部	〃 七段
〃	久保 秀夫	H20. 12. 9	渉外部/インターネット事業部	〃 六段
〃	平野 則一	H22. 7. 30	普及事業部	〃 五段
理 事	阿久根 操	H23. 6. 21		大成建設(株) 代表取締役副社長
〃	足立盛二郎	H18. 9. 6		(株)ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長
〃	梅木 英	H19. 5. 29		日本棋院棋士 八段
〃	大崎 磐夫	H13. 4. 1		財団法人大倉文化財団理事長
〃	太田 省三	H23. 6. 21		(株)東京金融取引所 代表取締役社長
〃	小川 誠子	H24. 6. 26		日本棋院棋士 六段
〃	前 哲夫	H19. 5. 29		日本証券業協会 会長
〃	松浦晃一郎	H23. 6. 21		世界ペア碁協会会長
監 事	桐本 和夫	H20. 12. 9		日本棋院棋士 四段
〃	吉川 悦良	H22. 7. 30		公認会計士

平成24年度 事業報告

平成24年度事業報告には、「一般財団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成25年6月

公益財団法人 日本棋院